

恐竜に会いたい

岡山理科大学教授・石垣忍



⑤ いざ砂漠へ出発—モンゴル

「みなはら時からね」「サーモンゴル語でOKの意味」

ここはモンゴルの首都ウランバートルです。8月11日、岡山理科大学とモンゴル科学アカデミーの共同調査チームがキャンプの準備をしています。これから恐竜発掘調査のためゴビ砂漠へ出発するのです。みんな、忙しくても明るいのは、きっと何かが見つかるだろうという期待があるからでしょうか。

ブルン、ブルンと大きな音を立てているのはカマズというロシア製の大型トラック。「缶詰類は全部買えたぞ」「コメと小麦粉はどの箱?」。大声で話しながら日本人とモンゴル人が協力して、食品を箱に詰めています。「カマズへの積



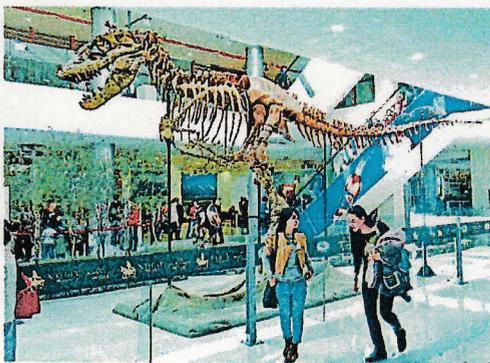
そこにある。掘らないことには始まらないのです。いくら忙しくても、夏になったら発掘地へ出かけて掘る。それが恐竜研究の原点です。今年の調査隊は全部で16人。学生もいます。みんなでキャン

発掘が研究の原点



モンゴル科学アカデミー古生物地質学研究所。ここをベースにしてゴビ砂漠へ旅立ちます

プしながら発掘です。さて今年は何が見つかるでしょうか。この記事が新聞に出るころには大発見しているかもしれませんよ。来月の記事にご期待ください。じゃあ行ってきます。



モンゴルを代表する肉食恐竜「タルボサウルス」の骨格。ウランバートルの大きなショッピングモールに展示されています